発展的評価項目＜独自評価項目＞

～事業所におけるサービスの質の向上のためのシステムについての評価結果です～

事業所名：川崎市津田山保育園

取り組み　子どもが自分自身で事故予防を考えられるために

取り組み期間　2年5月～2月

PDCA	取り組みの概略
「P」 目標と 実践計画	子どもたちは、生活の中でも園庭遊びでも、友だちや遊具にぶつかることが多い。環境を整えるとともに、子どもが自分でも気付き、考えられるようにして怪我や事故を少なくしていきたい。そこで「子どもが自分自身で事故予防を考えられるために～大きな怪我をしにくい身体づくり～」をテーマに、「子ども自身が危険予知や予防（怪我をしない遊び方）について身につけていく。大きな怪我をしにくい身体づくり」を長期目標、「園内外の環境について（保育者の関わりを含む）改善する。年齢発達に合わせた様々な身体の動きを経験し、身体づくりをすすめる」を短期目標に置き、取り組みを計画した。
「D」 計画の実践	具体的な内容として、①園内研修として計画的に学びや検討の場を設ける、②ヒヤリハットの検証、③園庭遊びのマニュアルの確認、④年齢に合わせた健康・事故予防について話す機会を持つ、⑤子どもの事故と怪我や視野について学ぶことを挙げた。研修の経過を記録に残し、全体職員会議で報告を行い、全職員で共有した。また、園庭遊びのマニュアルを確認し、全職員に周知した。
「C」 実践の評価 結果	取り組みを通し、①計画的に研修を行うことができ、保育者の関わりによる育ちについて各年齢の子どもの姿を記録に残すことができたこと、②ヒヤリハットの検証を行い、事故や怪我の傾向について知ることができたこと、③子どもの視野について学ぶことができ、子どもが感じる危険についても、子どもが自ら考える機会を設けることで知ることができたことなどの成果があった。また、遊びの中で子どもたちに「大丈夫かな？」などと投げかけることで、子どもが自分で考える機会をもち、子ども同士で声をかけ合う姿がみられるようになったこと、各クラスの保育のねらいや見通しがこれまでよりも理解できたことなどの、思いがけない効果や気づきがあった。子どもの気づきを認め、自ら考える姿を大切に見守ったことや、保育者同士がこれまで以上にお互いの保育をみて意見を交換することができ、取り組みへの意識が高まったことが、思いがけない効果につながったと感じている。
「A」 結果をふまえての 改定計画	子どもと危険について共に考える機会をもち、共有したことを子どもの育ちに応じて更新していく。年齢ごとのおさえるべき育ちを確認しながらも、子どもの特性に応じた働きかけについて保育者間で意見交換し保育内容の向上に努める。以上をふまえ、長期目標の達成に向け、取り組みを継続することとしている。

＜第三者評価コメント＞

今年度の園内研修では「子どもの主体性」と「身体つくり」の２グループを作り、保育士は必ずどちらかのグループに入り、保育の質の向上に努めている。今回の取り組みは「身体つくり」のグループで進めたが、「子どもの主体性」にもつながっている。今後の取り組みの成果に期待する。

課題抽出項目＜独自評価項目＞

～内容評価項目について、次への取り組みを事業所が検討した結果です～

事業所名：川崎市津田山保育園

内容評価項目のうち、＜A3：一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている＞について、事業所全体で現状を確認し、今後の具体的な取り組みを検討した結果です。

事業所による取り組み

＜A3：一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている＞	自己評価の内容	①一人ひとりを大切に受け入れ、思いに寄り添い、子どもと同じ目線で話をして保育をしている。 ②子どもを肯定的に受け止め、否定的な言葉を使用していない。 ③川崎市の子どもの権利条約を意識しながら保育を進めている。 ④子どもが危険なことや、よくないことをした時など、咄嗟の状況で不適切な対応を行っていないかを冷静に考えながら、子どもに分かり易く対応している。 また、 ⑤職員間で子どもの権利についての考えを共有し、共通認識をもって保育を行えるよう意見集約し記録している。 ⑥職員一人ひとりが日々お互いの保育に目を向けて、前向きな意見の交換ができるよう計画的な会議のなかで、保育の振り返りを行い記録に残している。
	自己評価で気づいたことについての今後の具体的な取り組み	項目に対する取り組みは十分できているが、上記の①～⑥を引き続き行い、今後は次の取り組みを追加していく。 ⑦子どもたち一人ひとりが楽しい、心地よい、愛されている、大切にされていると感じられるように、保育者が常に言葉遣いや接し方、行動を意識していく。 ⑧人権に配慮した保育について意識をもてるように、日頃から職員間で話題にし、自身の保育について振り返りを行っていく。子どもも大人も尊重し合える関係作りを行っていく。 ⑨言葉にできない思いや要求を見逃さず心を寄せ、その子にとって今大事なことを考えて丁寧に伝えていく。 ⑩子どもと人権について話す機会をつくり、自分を大事にすることの大切さを伝え、周りの人との関わり方についても、子どもなりの考えを言葉にしていけるように関わっていく。

＜第三者評価コメント＞

一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っていることについて、あらためて現状を評価し、次の取り組みを決めている。今後の成果に期待する。